

「伝来／消滅」

写真学科 小林紀晴 Kisei Kobayashi



Agra・India 2015

古代からの宗教の伝来を切り口とした風景、建築を主とした展示です。撮影地はインド、タイ、インドネシア、香港、東ティモールなどです。インドで生まれた仏教は5世紀頃から衰退し、その後イスラムの攻撃をうけて壊滅。イスラム王朝は中世に繁栄したが、消滅。タイでは13世紀から上座部仏教の勢力が強まり、その後ミャンマーとの戦いで寺院が多く破壊されました。バリ島では土着の信仰とヒンドゥー教が結びつき、爛熟。東ティモールは国民のほぼすべてがキリスト教徒で、インドネシアからの独立の要因のひとつとなりました。伝来の痕跡、破壊、消滅して人の記憶から消え去っていったもの、あるいは共存していくさまに人間の欲望、願い、意思といったものを感じました。私はできるだけそれらの正面に立ち、遠い過去の声に耳を傾けました。たとえ破壊されたものであっても、どういうわけか安らぎを覚えもしました。現在もなお、宗教が対立、紛争、テロなど数々の問題を引き起こす因になっていることは否定できません。だからこそ、残された遠いかたちを通し、連綿と続く人間の姿に目を向けたいのです。

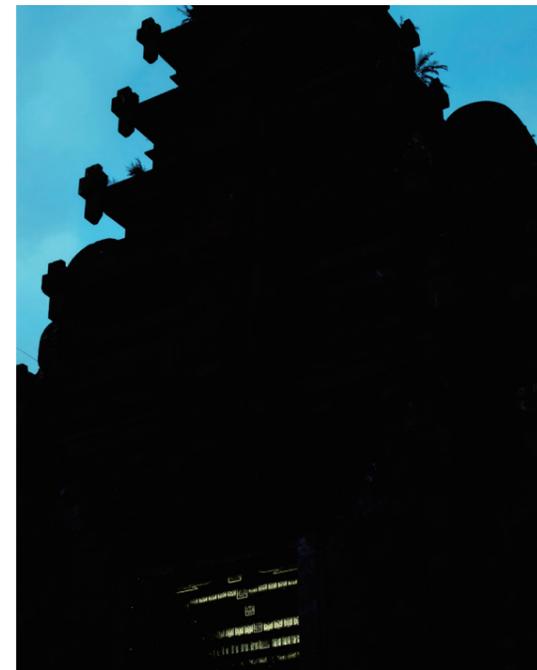


1968年長野県生まれ。東京工芸大学短期大学部写真技術科卒業。新聞社にカメラマンとして入社。1991年独立。1995年『ASIAN JAPANESE』でデビュー。アジアを多く旅し作品を制作。2000-2002年渡米(N.Y)。近年では自らの故郷である諏訪地方を独自の視点で見つめなおし、作品制作を行っている。2013年より東京工芸大学芸術学部写真学科教授。2015年よりニコールクラブ顧問。写真集、著書多数。

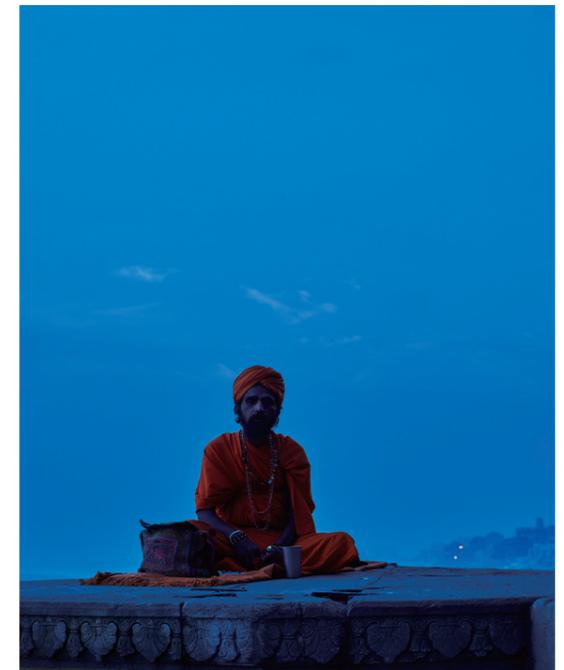
受賞：1997年写真集『DAYS ASIA』で日本写真協会新人賞、2013年個展『遠くから来た舟』で第22回林忠彦賞。



Angkor Thom・Cambodia 2015



Bali・Indonesia 2014



Varanasi・India 2015